

(19)日本国特許庁（J P）

(12) 公 開 特 許 公 報（A）

(11)特許出願公開番号

特開平6－142351

(43)公開日 平成 6 年(1994) 5 月24日

(51)Int.Cl.⁵

B 2 6 B 21/14

識別記号

庁内整理番号

9029－3 C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 2 (全 3 頁)

(21)出願番号

特願平4－326246

(22)出願日

平成 4 年(1992)11月12日

(71)出願人 000001454

株式会社貝印刃物開発センター

岐阜県関市小屋名1110番地

(72)発明者 斉藤 達也

岐阜県関市小屋名1110番地

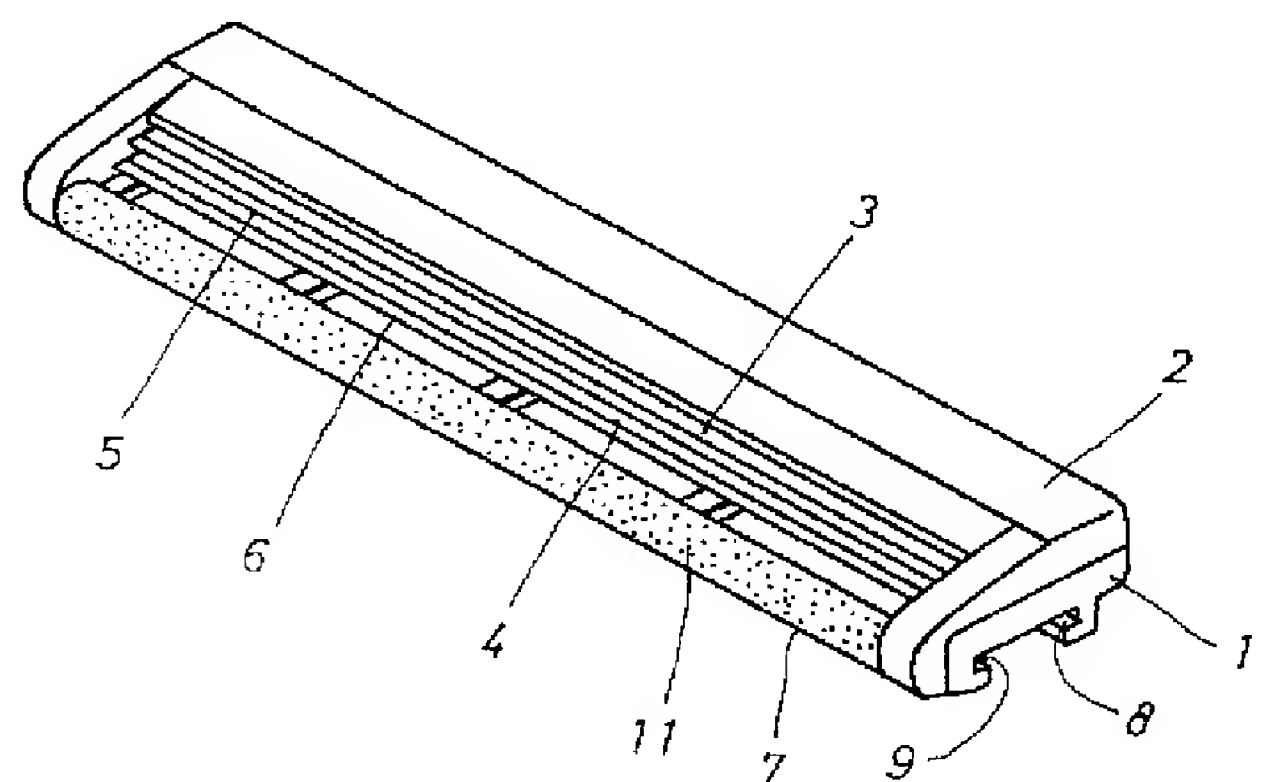
(74)代理人 弁理士 伊藤 浩平

(54)【発明の名称】 安全かみそり

(57)【要約】

【目的】本発明は安全かみそりの改良に係り、髭剃り時に安全かみそり自身が皮膚の表面を引っ張って突っ張らせることにより、深剃りを行うことができることを目的とする。

【構成】刃体の刃縁の先方に間隔を置いてガード部が刃縁と平行に延在する安全かみそりにおいて、使用時に皮膚と接触するガード部の表面が摩擦係数の大きな物質であることを特徴とする。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 刃体の刃縁の先方に間隔を置いてガード部が刃縁と平行に延在する安全かみそりにおいて、使用時に皮膚と接触するガード部の表面が摩擦係数の大きな物質であることを特徴とする安全かみそり。

【請求項2】 刃体の刃縁の先方に間隔を置いてガード部が刃縁と平行に延在する安全かみそりにおいて、使用時に皮膚と接触するガード部の表面の一部が摩擦係数の大きな物質であることを特徴とする安全かみそり。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は安全かみそりの改良に関する。

【0002】

【従来の技術】従来から安全かみそりは文字通り安全性を確保するために、刃体の刃縁の先方に間隔をおいて細長いガード部が刃縁と平行になるように設けられていた。そして、ひげ剃り時に安全かみそりが皮膚の上を円滑に滑ることができるように、ガード部はプラスチックで形成されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来のガード部は上述の通りであるから、ひげ剃り時に安全かみそりが皮膚の上を円滑に滑るという効果を得ることができる。ところが髭は皮膚の毛穴に埋め込まれたように生えているので、従来の安全かみそりでは髭は皮膚の上に突き出た部分までしか剃ることができず、毛穴に少しでも埋まっている部分を剃ることができなかった。すなわち、深剃りを行うことができなかった。そこで、使用者は指先で皮膚の表面を引っ張って突っ張らせながら使用することにより深剃りを行っていた。本発明は、単にひげ剃り時に安全かみそりを移動させるだけで深剃りのできる安全かみそりを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の構成は、刃体の刃縁の先方に間隔を置いてガード部が刃縁と平行に延在する安全かみそりにおいて、使用時に皮膚と接触するガード部の表面の全部又は一部が摩擦係数の大きな物質であることを特徴とする。

【0005】

【実施例】次に、本発明の実施例を図面に従って説明する。図1は組立刃体であって刃台1と天板2の間に2枚の刃体3、4が挟着され、刃体の刃縁5、6の先方に間

2

隔を置いてガード部7が刃縁5、6と平行に設けられている。刃台1の裏面に向かい合わせに形成された溝8、9は、この組立刃体を装着するホルダーの上端に設けられた外向きの一对のレール状結合部と結合するためのものである。

【0006】ガード部7は天板2と一体的に同時成型され、軸心10の周囲が摩擦係数の大きな物質で形成された滑り抑制部11で全面的に覆われている。摩擦係数の大きな物質としては、例えば合成ゴムのようなエラストマー樹脂や天然ゴム、その他比較的柔軟性がある摩擦係数の大きな種々の物質が用いられる。

【0007】図3乃至図7はガード部の他の実施例を示したもので、図3は軸心10の周囲の半面に滑り抑制部11が設けられたものである。図4及び図5は軸心10の表面の長さ方向に細長い4条の滑り抑制部11が設けられたものである。図6及び図7は摩擦係数の大きな物質の基部12が軸心10の長さ方向に沿って一連に延在し、基部12の途中に一体に設けられたリング状の多数の滑り抑制部11が軸心10の表面に一定間隔で配置されたものである。

【0008】

【発明の効果】本発明は以上のような構成であって、使用時に皮膚と接触するガード部の表面の全部又は一部が摩擦係数の大きな物質であって、この部分が滑り抑制部となっている。したがって、ひげ剃り時に滑り抑制部が安全かみそりの進行方向に皮膚を引っ張る作用をなす。この結果、皮膚は引っ張られて突っ張るので毛穴に埋まっていた髭の根元が浮き上がり、深剃りを行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の斜視図

【図2】 ガード部の断面図

【図3】 ガード部の他の実施例の断面図

【図4】 ガード部の他の実施例の斜視図

【図5】 図4のガード部の断面図

【図6】 ガード部の他の実施例の斜視図

【図7】 図6のガード部の断面図

【符号の説明】

1 刃台 2 天板 3, 4 刃体 5,

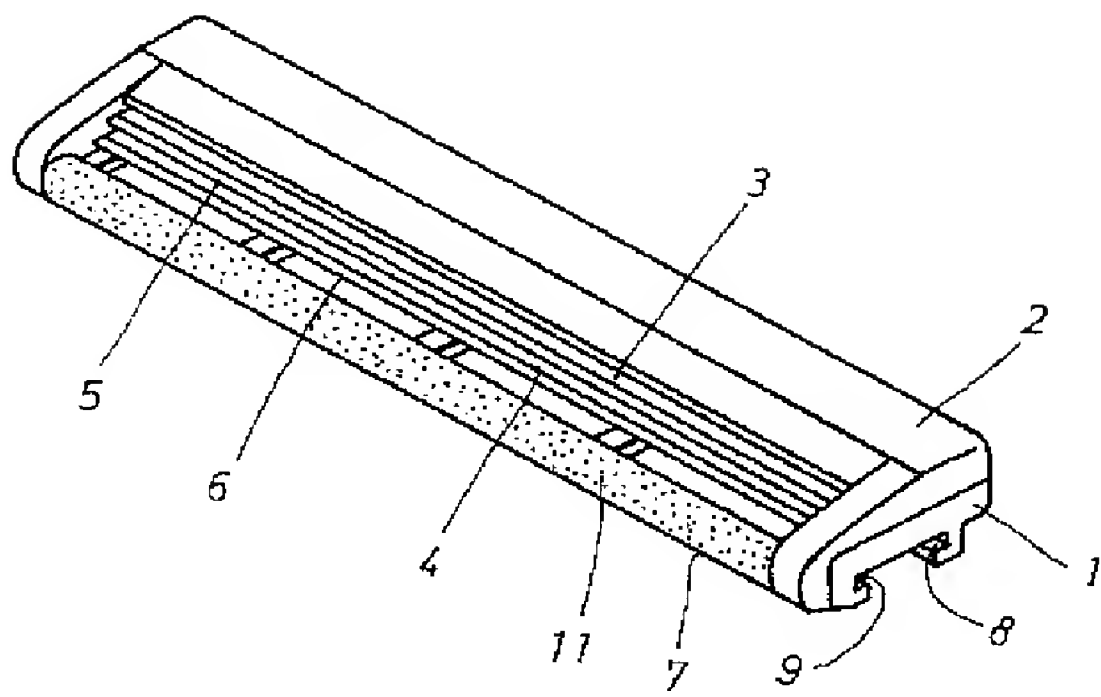
6 刃縁

7 ガード部 8, 9 溝 10 軸心

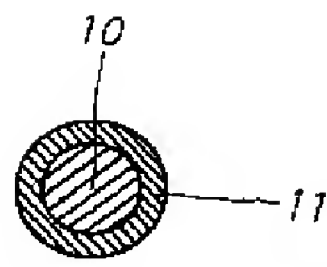
11 滑り抑制部

12 基部

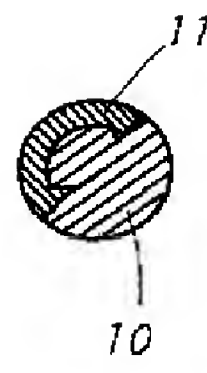
【図1】



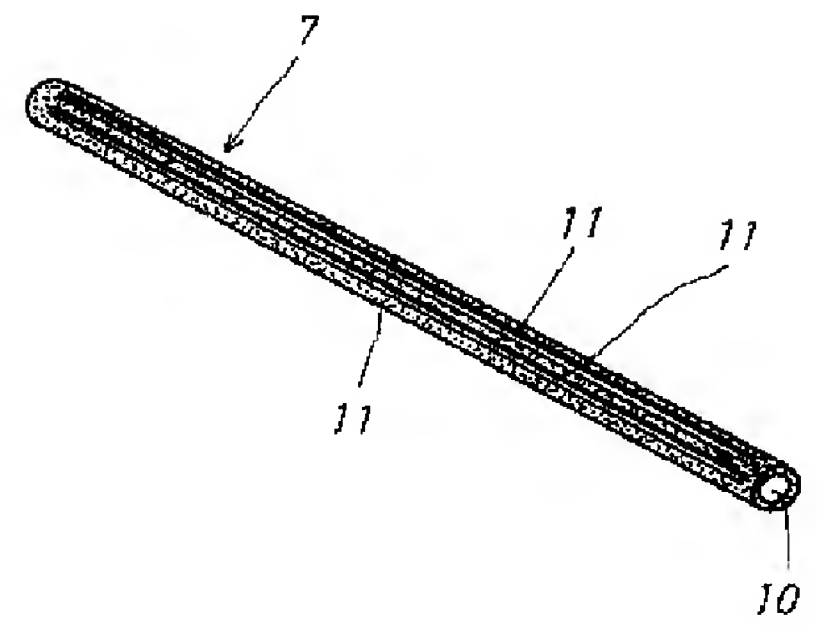
【図2】



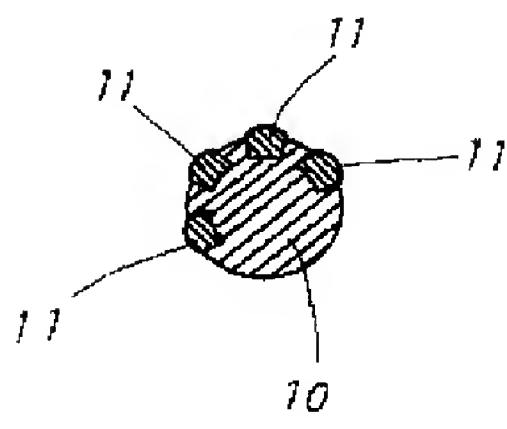
【図3】



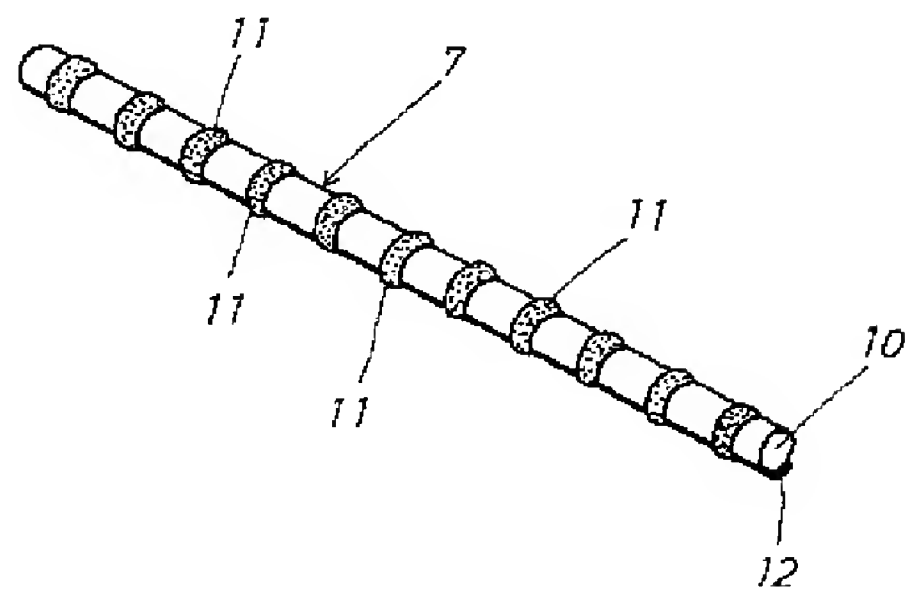
【図4】



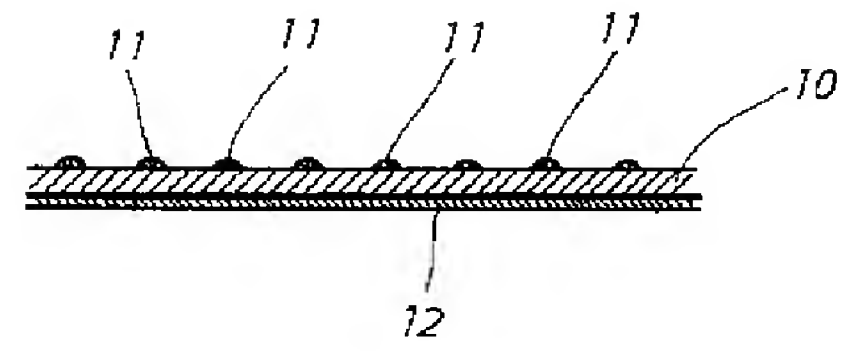
【図5】



【図6】



【図7】



PAT-NO: JP406142351A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06142351 A
TITLE: SAFETY RAZOR
PUBN-DATE: May 24, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SAITO, TATSUYA	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KK KAIJIRUSHI HAMONO KAIHATSU CENTER	N/A

APPL-NO: JP04326246
APPL-DATE: November 12, 1992

INT-CL (IPC): B26B021/14

US-CL-CURRENT: 30/34.2

ABSTRACT:

PURPOSE: To enable deep shaving smoothly by employing material with a large friction coefficient to a surface of a guard section contacting skin.

CONSTITUTION: Two blade bodies 3 and 4 are sandwiched between a blade base 1 and a top plate 2 and a guard section 7 is arranged parallel with blade rims 5 and 6 at an interval ahead of the

blade rims 5 and 6 of the blade bodies 3 and 4. The guard section 7 is molded integral with the top plate 2 simultaneously and the perimeter of a shaft center 10 is covered entirely with a slippage checking part 11 made of a material with a large friction coefficient. The material with a large friction coefficient herein used is, for example, an elastomer resin such as synthetic rubber, natural rubber or other various material relatively soft with a large friction coefficient. As a result, in shaving, the slippage checking section 11 works to pull skin in the ongoing direction of a safety razor. Thus, the skin is pulled to stretch so as to make the root of beard sunk in pores float thereby achieving deep shaving smoothly.

COPYRIGHT: (C)1994,JPO&Japio